

マイナスのこころをゼロに ゼロのこころをプラスに…。

耳できく音楽から、心できく音へ。

勇気、慰め、励まし……

忘れていた風景を呼び覚まし、寄り添うように語りかける

それはまさに現代に生きる大人の童謡。

大切にしまってきた心の声を解き放つ、

音楽だけが持つ力がここに 있습니다。

◆収録楽曲本人解説

01. 風のゆくえ

(鈴木重子プロデュース「風のフォーラム」2005にて鈴木重子作詞・歌唱で初演)
鈴木重子さんという素晴らしい歌手の方から、強く美しいインスピレーションをいただいで生まれた、深い森や湖、星空のような曲です。誰しもの心に、このような湖のような深さや強さが眠っているかもしれません。タイトルも鈴木重子さんからいただきました。

02. すこし風の日

(京セラウェブ・ムービー「九月の花火」挿入曲)
07年から08年にかけてウェブ上で流れていた、若者4人の夏の友情と恋を描いたムービーの挿入曲です。緑さざめく丘や晩夏の夕べにそよぐ、やわらかな風のような曲です。ただ風の吹く、明るく心地よい場所にいるときには、人を想う心が戻ることを感じました。タイトルは、写真家・コピーライターの北澤浩一さんからいただきました。

03. children's ballad

(教育社 'English Land' story time 挿入曲)
子供向けの英語教材テープのテーマ曲として生まれた曲です。作るときには、聴いてくれるであろう子どもたちの、希望にあふれる明るい笑顔が思い浮かんでいました。自分のためではなく、未来を担う子どもたちのことを考えると、とても利他的な心になることに気づきました。

04. gran's wisdom

(昭和産業「お釜にボン!」CM 2003~2004)
緑あふれる旧家でおばあちゃん、お母さん、孫がご飯を炊いて団らんをする場面のCMでした。とても幸せそうな家族の肖像のイメージの音です。皆で一緒に食卓を囲むのは、何と瑞々しく幸せなことでしょう。

05. your tear

人生には、涙もつきものです。涙や、それを乗り越える意志。悲しみのいろいろな面がうつしだされたような曲です。悲しさのあとには、意志の力がよみがえり、新しい道が開かれて行くことを、音楽がさしめしてくれたような気がします。

06. recollections

時には哀しい思い出も、いずれ心の糧になって行きます。そのプロセスを支えるような曲なのでしょう。哀しみが美しい思い出にかわってゆくのは、人からもらった優しさのせいなのかもしれないと思いました。

07. Celeste

天から降ってきたような曲です。Bill EvansのRe: Person I Knewを練習していたときに生まれました。人は杳からはみ出したい気持ちをどこかに持っているものですが、杳からはみ出してもなお美しくあろうというのはこういうことかと思いました。

08. calm tempest

自然は、時には静止画のようであったり、おそれをもたらす激しい姿をみせたりします。静けさと激しさ、それを超えた懐の深さ、優しさ、厳しさ、さまざまな面があります。それらを少し離れてみたものが、風景画なのでしょう。それは単なる一瞬を切り取ったものではなく、これらのたくさんの面を同時にあらわしているのでしょう。この音楽でそんなことが心に舞い込んできました。

09. out of accord

ときには秩序を外れることも、新たな気づきのためには必要なときがあります。それを許されるのがまさに音楽の中なのでしょう。この曲の中ではどこか混沌とした宇宙の中にいるような気持ちになっていました。

10. blossoms

カラフルな花が、つぎつぎと咲き乱れるような光景が頭に浮かんでいました。あらためて、(たとえ思い起こすだけでさえ)花というのは人に希望を抱かせるものなのだなあ、と音楽を作りながらあらためて感じ入りました。

11. bright eyes

(昭和産業「お釜にボン!」CM2004~2006)
CMでは、三世代そった家族が皆で朝の公園で体操をする場面から始まりました。とても愛らしい眼をした小さな女の子が主役で、みな本当に幸せそうに朝の食卓を囲んでいました。CMを覚えていらっしゃる方もいるかもしれません。このようなイメージに音楽を添えることができて、とても幸せでした。